

# ピースアクション in ヒロシマ 「被爆者との交流・被爆証言を お聴きするつどい」

## 2023年8月5日 開催報告



ピースアクションinヒロシマ「被爆者との交流・被爆証言をお聴きするつどい」を、広島医療生協のご協力で開催し、都内6生協からの中学生を含む38名が参加しました。

第2次「黒い雨」訴訟原告団の団長をされている岡久郁子さんから、78年前を振り返りながら、現在活動されている「黒い雨」訴訟についてのお話を聴き、改めて被爆者の現状や核兵器廃絶による平和の大切さを実感する機会となりました。

当時4歳だった岡久さんは、爆心地から約20kmの山間部にある疎開先から診療所に受診していた時に、広島市内のほうで大きな爆発音がして、まもなく空が真っ赤になり、焼け焦げた紙くずやゴミが降ってきたそうです。その後、疎開先に帰ってきたお母さまは、祖母から「黒い雨が降ったのう」と聞かされたそうです。

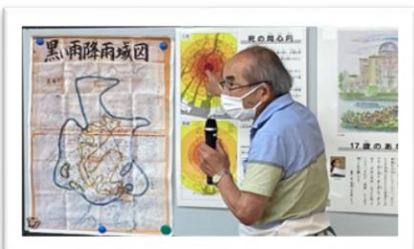
参加生協: パルシステム東京、東都生協、東京保健生協、東京ほくと医療生協、こくみん共済coop、東京都生協連  
開催協力: 広島医療生協 広島共立病院 医療福祉相談室  
日本生活協同組合連合会

### 「黒い雨」とは

広島への原爆投下後、放射性物質を含んだ黒煙が巻き上がり、空気中の水滴と混じって地上に降った雨のこと。「黒い雨」を浴びたことによる内部被曝によって健康被害に苦しみながら、これまで「被爆者」と認めてもらえない方がいらっしゃいます。



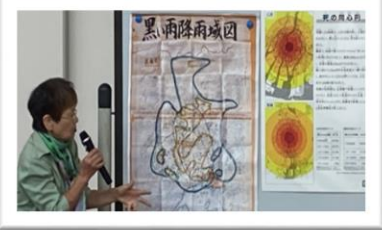
岡久郁子さん(右)  
広島医療生協広島共立病院  
医療福祉相談室  
医療ソーシャルワーカー  
山地恭子さん(左)



医師の青木克明さんもご参加いただきました。元広島共立病院長で「黒い雨」や韓国被爆者救援にご尽力されており、現在は立川相互病院に勤務されています。



ご友人からの依頼でカンパや「黒い雨」に関する資料の作成に関わっていた岡久さん。裁判所速記官として、原爆症の認定訴訟の法廷に立ち会い、被爆者全体のために訴訟に立ち上がる方々、学者や医者、弁護士の姿を見てきました。ご自身は、経過観察中の甲状腺異常ではなく、運動機能障害の診断書で再度申請し、今年1月に被爆者であることが認められました。



しかし、被爆者にとって画期的な広島高裁判決を手にしたにも関わらず、未だに降雨地域での線引きがあり、11の疾病にかかっていなければ被爆者として認められないのです。「黒い雨」が降った地域にいた人はみんな被爆者として認めよ、の思いで裁判に臨まれています。2021年1月、核兵器禁止条約発効の際には、亡くなった被爆者を思い浮かべながら、「ようやくここまでたどり着いたからね」と心の中で叫んだそうです。



### 参加者の感想

- 原爆について直接お話を聴くことで自分にも何かできることはないか考えようと思いました。
- 岡久さんの説得力のあるお話を聴き、地道な運動が大きな成果に結びついていくことを感じました。「まどうてくれ」という思いの光が見られる日が来ることを願うばかりです。